

海 (かいし) 市 No. 24

● 詩

- 02 横山 仁 生活の柄 (19)
06 前田 勉 小路・夏の午後 (3)

● エッセイ

- 10 細部俊作 南木佳士の「草すべり」を読んだ
13 佐藤ただし 水田とツバメ (22)
17 横山 仁 雑記 (24)

生活の柄(19)

横山 仁

夜

トイレの水が 流れていない

浮かんでいるかりんとう様のもの 五個を
火ばさみで取りのぞく

便器内の汚水を 風呂桶で汲み出し
風呂場に流す

排水口がみえてきたので
パイプクリーナーで

詰まったトイレットペーパーを掻き出す

*

数日後

夕方

味噌汁の鍋に 火をつける

さ、しょんべしてくるがな

便所、水あふえだー

溢れた水には キッチンペーパーをかける

便器内の水は 灯油ポンプでバケツに汲み出し
風呂場に

排水口から

パイプクリーナーで

詰まったトイレットペーパーを掻き出す

(ガスコンロの火は消え)

(味噌汁の鍋は黒焦げに)

小路・夏の午後（3）

前田 勉

夏の午後

白っぽくなった光に圧されながら

駅へ向かう

向かいの窓に反射した光が一条

細い小路へ射し込み

雑居ビルの壁で屈折し上階へ抜けていた

その小路の影に潜んだ老人が

何かを叫んでいる

目を凝らすと

子供も一人

短い影に隠れて
泣いている

聞こえない

暖められ弛緩した時間が防壁になって
聞こえてこない

駅舎の待合室には誰もいなかった

真新しいベンチが

発着の時間を埋めるように並び

小さな天窓から射す陽に

影をつくっている

数えることをしなくなってしまった

いつかの

私の影を探していると

不意に

待合室の戸が開いて

午後の光が溢れ

戸を開けた人の姿も

背景にあるはずの街も

白く飽和し

見えない

待合室の中も

消えて

夢の中

ぐるぐるまわりながら

谷底へ落ちてゆくときの

いつも絡みついてくる情景

に似ていた

南木佳士の「草すべり」を読んだ

細部 俊作

『草すべり』（二〇〇八年文藝春秋社刊。二〇一一年文春文庫）に収められた四篇の小説はそれぞれが読み切りになっているが、全篇を通じて、登山をするなかでうつつから回復しつつあることを確かめていく主人公の姿が語られている。

「穂高山」

主人公は、上高地から歩いて涸沢の山小屋に着く。もともと、ここから間近に奥穂高岳を眺めればそれだけでよかったし、一泊したら下山するつもりだった。それが翌朝、来たついでにと手足を動かしていた。ゆつくりと登山靴の幅だけ前進するうちに全身の汗腺から汗が噴き出る。そのまっとうな代謝を行なった証拠と

しての汗に、自分がここにいることを実感する主人公。危険個所ではからだの五感を総動員する。他の短編の中では、針葉樹の揮発性の香りに底深い快感を感じたり、中学の部活のサッカーで反復練習をしたことが下山の足運びの役に立ったという発見もある。こうした「からだ」の反応のなかに、からだとしてのわたしを発見し、実感していく。なんと「登れば汗をかく『わたし』が登っている」と山頭火ばりの自由律まで出てくる。

主人公は医師で、患者の治療にはコンピューターを使う。いまは患者との間にコンピューターが介在し、ともすれば医師は患者を見ずに画面を見てデータを翻訳して話す。患者もコンピューター（のデータ）に脅かされ続けることでしか自分を確認できない。主人公が自ら患者となったときの体験として、術後、麻酔から覚めた後の、深く息を吸えないほどの激痛のなかで、痛みそのものがわたしだという気分になったことが語られる。

わたしというからだだが、患者の時に感じたのは激痛であったけれど、山では発汗や針葉樹の芳香といった

ことに反応して快感を得た。この誘惑は断ちがたいと書いている。この感覚は(受療時の激痛を感じたといった経験はないが)、自分もアオモリトドマツから芳香が漂っていると、そこを通過しては引き返して、二度も三度も清涼剤のように楽しむので分かる気がする。「バカ尾根」には「人は変容する。変容しなければ生き延びられない」とあった。自分のなかに潜んでいる動物性を回復していく、ということを変容といっているのではないか。緩やかな、息の長い変容。「ほっておいても勝手に生き延びようとするからだはおのずから変容してしまう」。これは、まわりの環境の力を借りつつ、からだの自然治癒力とか回復力とかによって元気になったら、その後は、環境に応じた、身体の欲求に逆らわない生き方をしていく、といっているように思われた。

「草すべり」

沙絵ちゃんから浅間山登山への同行を持ちかけられて、主人公はゆくことにした。沙絵ちゃんは、これまで何度も祖父の別荘を起点に浅間山に登ってきた。し

かし、今日は下山時に体調が急激に低下した。いままですら草すべりの急坂を手ごたえと感じていたけれど、ふらついたり三歩ごとに止まっては荒い呼吸になる。戸惑う主人公。しかし、下山後、沙絵ちゃんがしたある行為によってその謎は明かされる。そのとき、主人公が動揺を隠そうとして、映画「誰が為に鐘は鳴る」のイングリット・バーグマンを引き合いに出して気遣う姿がよかった。山から下りた沙絵ちゃんは、その後、町へ戻ってからどうしただろう。病から脱しただろうか。

「旧盆」

主人公の叔父や義母、祖母についての思い出や、実家のある土地の老人会長の話から父親の新たな側面を知ったことなどが語られる。

・金で幸福は買えないけれどたいい不幸は遠ざけられる。

「バカ尾根」

「七曲り」という、秋田市内にもあるこの地名は全

国あちこちにあるようだ。主人公は長野県佐久市内の自宅からほど近い七曲りに桜やこぶしの花見と称して出かける。登山用のザックに入れたのは純米酒の一瓶だと書いてあるから、一人でそんなに飲むのかと思わず笑った。ほかにバーナーなどの燃焼具と冷蔵庫にあった食べ残りのおかず、錫の酒器やお燗をつける器、ぐい呑みという遊び道具を広げる。正対した浅間山を相手に、二週間前の妙義山でのケガや、おぼさんとの出会い、昨年行った浅間山での別の、おぼさんとの出来事が語られる。その話には、著者を思わせる主人公の生真面目さが出ていて、それがまた滑稽味も含んでいて面白い。それに上州弁の「おぼさん」は二人とも強気で飾らず、親切だった。日常とは異なる山中で見知らぬ人と交わした会話は案外記憶に残るものだと、自分の体験として感じてきたことだが、「おぼさん」のやりとりは著者が山中で実際に遭遇したときの再現だったのかもしれない。そして以前読んだ『神かくし』に高齢の女性二人と鍋を囲む話があったことも思い出した。それにしてもなんにしても、主人公のように山を相手に花見酒を試みたい。けれどどこへ

行けばいい。

南木佳士の書くものには、自分の卑小さをあつさりさらけ出したり、謙虚さ、殊勝さがあらわれていて、世間にふつうにいる人の感覚に出会おうようで安心感がある。この「バカ尾根」に、かつて縦走した八ヶ岳の山並みを眺めて次のように書いている。その飛び切りの謙遜さに脱帽してしまった。

・景色のあまりの美しさに、あんなきれいな処に自分のような者がいたはずはない。

水田とツバメ（二二）

佐藤ただし

・水田にやって来る鳥たち

トラクターで田んぼを起こしていると、掘り起こされた土の中から出てくるミミズやケラを食べようとカラスが何羽もやって来る。殆どハシボソガラスで、ロータリーと呼ばれる耕運部の後からトラクターのスピードに合わせて付いてくる。こうした場所に集まってくるカラスは他のカラスよりいち早く獲物を見つければならないのか、競争を強いられているような表情をしている。

そうしたカラスやハクセキレイに交じって歩いている鳥がいる。どこかヒバリに似ているが少し羽根の色が濃く、ヒバリのような冠羽がない。セキレイのよう



タヒバリ（『フィールドガイド日本の野鳥』より）

にも見えるがそうでもない。仕事を終え家に帰ってガイドブックを見るとタヒバリであった。タヒバリはヒバリ科ではなく正式にはセキレイの仲間のようなだ。歩く姿はハクセキレイに似ている。

この鳥は枯草や田畑の乾いた土に似た体色のため目立たない鳥だが、先人達はこうした鳥にも田んぼでよく見かけるヒバリに似た鳥ということ、タヒバリという名前を付けたのだろう。この他にも名前の頭にタの付く鳥はタゲリとタシギで両種ともこの辺りで見ることが出来る。

田起こしが終わると、田んぼに水が入ると、水の苦手なタヒバリはあまり見かけなくなる。代わりに



代掻きに集まるウミネコとカラス

る。近くで見るとアオサギはことのほかスリムな体をしている。細長い首や尖った嘴、鋭い目。空を飛ぶために無駄な肉をそぎ落とした胴体。繊細な淡灰色の飾り羽根。黒く細長い脚。体長一メートル近いこの鳥はその細い体でゆっくりと田んぼの中を歩く。その姿は遠い昔から変わらない光景だろう。

脚の長いアオサギや水掻きの付いたウミネコがやって来る。

最近使っているトラクターは運転するところが箱状に囲われているため、鳥たちは中に人が入っていると気づいていないのか、あまり警戒されない。アオサギなども五メートル近くまでやってきてミミズを突いてい



アオサギ（『フィールドガイド日本の野鳥』より）

に海から山を越えて飛んでくるものと思っていたため、ここに田んぼがあることをなぜ知っているのか不思議だった。しかしカラスやハクチョウなどが川を飛行のルートにしているのを見て、ウミネコも川を遡って飛んで来るうちにその周辺に広がる田んぼを見つけ、やって来るようになったと考えるようになった。

代掻きをして
いる一枚の田んぼの中にこの日はアオサギが四羽、ハシボソガラスが十数羽、ウミネコも同数くらいエサを求めてやってきた。

このウミネコだが、海岸から七キロ程内陸に位置するこの地



トウネン（『フィールドガイド日本の野鳥』より）

ウミネコは日本で繁殖するため、そのほとんどは日本で生まれたものだろうが、その目は私の知らない国で暮らしていたような目をしている。いつ見ても白い羽毛は汚れがどこにも見当たらない。多分、体から出ている油分で羽根や羽毛がコーティングされているため、泥田に入っても泥水が体に付きにくい仕組みなのだろうが、代掻きが終わって水を張った田んぼに入り、バシヤバシヤ羽根を動かして水浴びをしている時もある。

このウミネコも田植えが終わった頃には姿を見せることはほとんどない。ここにはもう餌になるものがないと言っても言っているようだ。

今年はトウネンというスズメくらいの大きさの

シギの仲間が五羽来ていた。トウネンという和名は今年生まれた鳥のように小さいということから付けられたという。秋の渡りの季節に船越の海岸あたりを数羽の群れで歩いているところは見たことがあったが、春にもこうしたところに来ていたとは知らなかった。

五羽のトウネンは田んぼに降り立つと、顔を上げることもなく水の中にある餌を探し歩いているが、一体何を食べているのか分からない。

この鳥は夏にシベリヤやアラスカなどの北極に近い土地で繁殖し、冬は東南アジアやオーストラリア、ニュージーランドなどの南半球で越冬するため、秋と冬の二回日本に立ち寄るといふ。今は繁殖のため北へ帰る途中ということになる。スズメくらいの体で、毎年数千キロから一万キロの長旅を繰り返すこの鳥達には頭が下がる。たまたまこの地に寄ったのだろうが、この旅鳥が寸暇を惜しんで採餌しているのも、繁殖地までの旅を乗り切る体力をつけるためだろう。この鳥は三日間見ることができた。

地球を旅しているこうした鳥たちがやって来るとうれしくなる。私に出来ることは、鳥達がまたやって来

るような環境を少しでも長く維持してゆくことだろ
う。

今年の冬から春にかけて田んぼや水路、そして田畑
の近くの樹木などで、見聞きした鳥たちを思いつくま
まに記す。

ミノサザイ（水路で）

カシラダカ

ホウジロ

アオジ

コチドリ、ケリ

モズ（堤防脇の樹木で）

ヒバリ

ハクセキレイ、タヒバリ

アオサギ、ダイサギ、コサギ、アマサギ

ノビタキ

カワラヒワ

ムクドリ

スズメ

キジバト

トビ、ハヤブサ、ノスリ

ハシボソガラス、ハシブトガラス

ツバメ

タシギ、トウネン、クサシギ

ツグミ

カルガモ

ケリ

カワセミ（水路で）

イカル（鳴き声）

カッコウ（鳴き声）

参考図書

フィールドガイド日本の野鳥 増補改訂版

高野伸二著

雑記 (24)

横山 仁

今から52年前のアポロ11号月面着陸が、全くのツクリモノであったことの決定的証拠映像を見たところです。以前書いた記事のコメント欄にメモったのですが、「コロナパンデミック」の渦中に在ることを思い、あらためてここに書きました。

前号でアメリカ大統領選挙にふれた。いまアリゾナ州などで手作業での数え直しが行われているが、不正がばれるのをおそれて、民主党などがいるんじゃないやまをしかけている。もちろん、票数がかわっても大統領がかわるわけではないが、中間選挙などにそなえて、アメリカ憲法にのっとった、不正が行われぬ投票システムの構築を確立するのがねらいだという。

*

「めいさん」の「移ろうままに2」(20210531)から。

(<https://oshosina2.blog.ss-blog.jp/archive/>)

(引用開始)

「アポロ月面着陸」が全くのデタラメだったこと
【現状把握】

《スタジオで撮影された月面着陸の映像がウイキリークされる (Wiki-leaked Footage of Moon Landing Filmed in a Studio) Komorusan Published 2021年5月29日 9,804 Views》<https://rumble.com/vhsmvr-wiki-leaked-video-of-moon-landing-filmed-in-a-studio.html>

意味不明なところもありますが、次のコメントがついています。《ランブル・バックスから猫が出てきて、いたるところで歯ぎしりしています。これは、史上最も手の込んだ騙しの一つで、そのペールが崩れるからです。多くの人がこの話題を取り上げてきたが、今回、巨大なスケールで大衆を騙すために必要なことを、ありのままの映像で見ることができると、もしかしたら、

これは地球の本当のコスモロジーへの序章なのかもしれない。Rumble — The cat is out of the bag and there' s gnashing of teeth everywhere as the veil comes tumbling down on one of the most elaborate deceptions of all time. Many have covered this topic extensively and now we get to see unadulterated footage of what it takes to deceive the masses on a gargantuan scale. Perhaps this is a prelude to the real cosmology of our earth》

(引用終わり)

*

「亀さん」のブログであったのは、「新型コロナ終息は科学的判断ではなく国民の気持ちの問題!？」Apr 9, 2021 という記事である。「恐るるに足らず」(20210421)

(引用始め)

次に紹介するのは、経営コンサルタントの鳥倉大輔氏の動画だ。鳥倉氏の武漢ウイルスについての解説で、印象に残ったのが以下の一連のグラフである。小生の

簡単な解説を付記しておいたが、詳しくは動画で直接確認していただきたい。(※次ページ画像参照)

それにしても、未だに武漢ウイルスに怯えている日本、いつになったら目覚めるのだろうか…

(引用終わり)

これまでも、コロナについてかいてきたが、経営戦略コンサルタントの坂上仁志氏が、簡潔にまとめている動画があったので、紹介する。「緊急事態宣言も営業自粛も効果がなかった！ PCR検査は感染を証明するものではない 無症状の人から感染した論文・証拠はない」より。(48623 views •May 4, 2021)

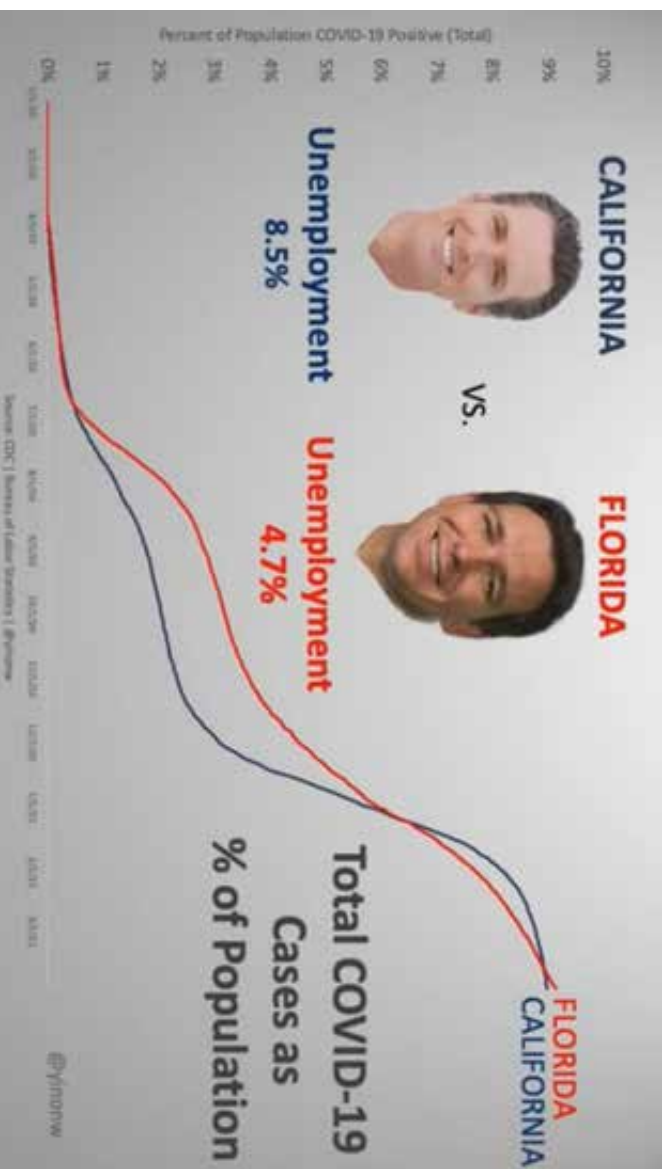
(引用開始)

①国会答弁より

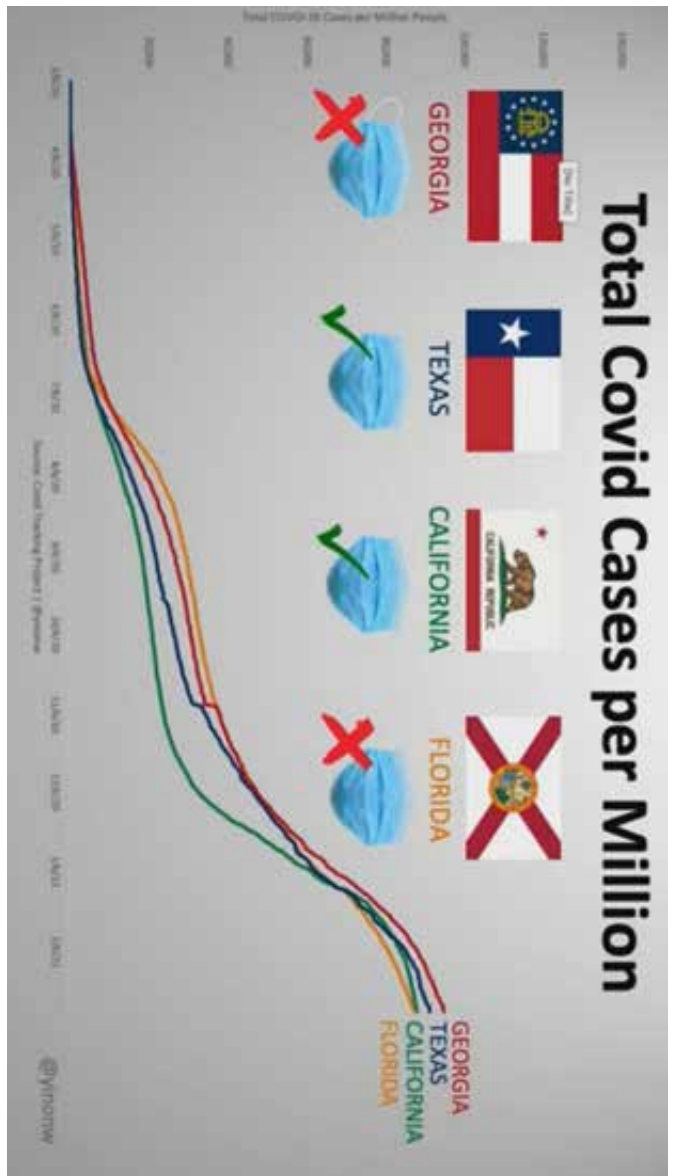
②PCR検査陽性とは

③緊急事態宣言は有効か？

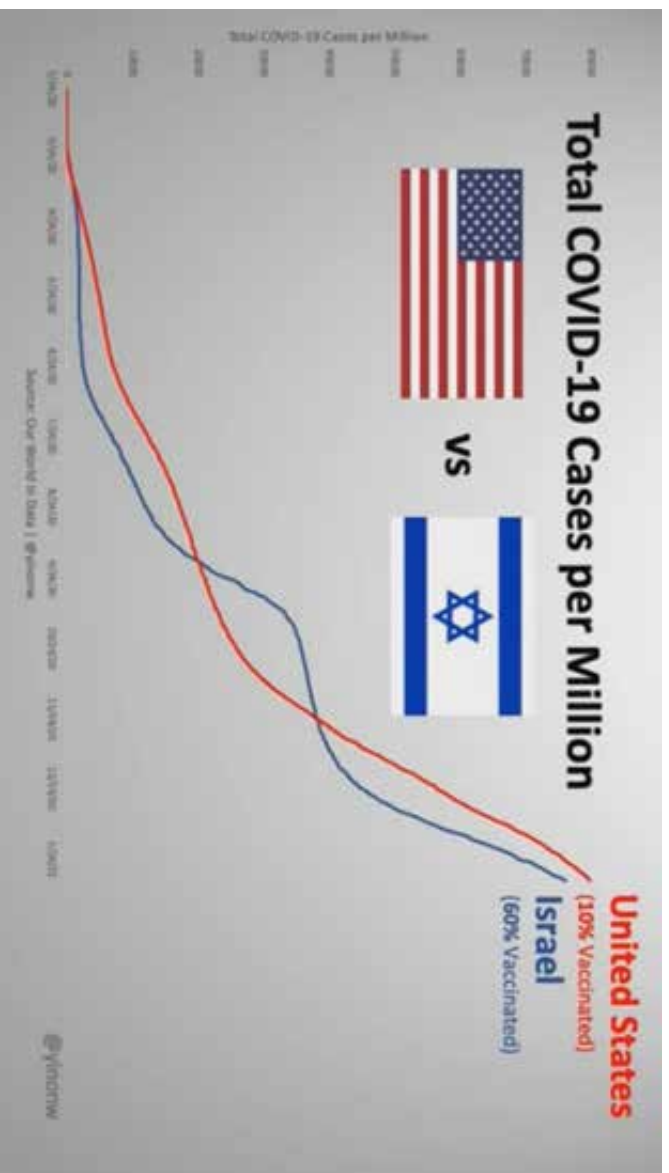
PCR検査



自棄をかけているようがあるまいが、関係なし！（動画 8:44～）



マスクをしていようがあるまいが、関係なし！ (動画9:32～)



ワクチンを接種していようがいるまいが、関係なし！（動画9:50～）

- ①喉や鼻に付着した
- ②5個のウイルスで
- ③陽性反応

柳ヶ瀬議員／国会質問

- ①厚労省佐原審議官
- ②PCR検査陽性は
- ③感染を証明するものではない

PCR検査／柳ヶ瀬議員

- ①2020年12月2日
- ②国会答弁

大田区議 奈須りえ

- ①97.3%の人
- ②ウイルス量8個以下

大田区議 奈須りえ

- ①無症状の人が
- ②感染者と呼ばれる

- ③ことに疑問

大田区議 奈須りえ

- ①無症状の人から
- ②感染したという
- ③論文・証拠はない

日野市議 池田としえ

- ①PCR検査が
- ②新型コロナウイルスを検出するという
- ③科学的論文はない

日野市議 池田としえ

- ①2020年11月30日
- ②質問

大阪府 吉村知事

2020年6月12日(金)

第2回大阪府・新型コロナウイルス対策本部・専門家会議

大阪府 吉村知事

①質問

②緊急事態宣言も営業自粛も全く効果がなかったのか？

阪大 中野貴志教授

①回答

②なかった
(引用終わり)

また別の動画も紹介している。「コロナにはイベルメクチンが有効！ 副作用がない 日本で承認済みノーベル賞 2015年 大村智氏 東京都医師会推薦 英リバゾール大 致死率80%減少 イヌラエルゲルガリア 南アは承認 WHOは否定的」67,636 views•May 17, 2021。

見た人のコメントより

私は医師ですが、かなり前からイベルメクチンの有

効性は言われておりましたが、メディアは全く報道せず、現在にいたってはワクチンがニュースを埋めております。様々な憶測が飛び交うなか、真実が広まることを願うばかりです。

インド在住です。コロナに罹患してしまった時、イベルメクチン12mgを5日間摂りました。初めて摂った日から呼吸が少しずつ楽になってきました。結果として回復し、副作用や後遺症も感じません。イベルメクチンという薬はこちらで友人に教えてもらい、近くの行きつけの薬局で購入しました。薬名で調べるとパラサイト対策の薬、と出てくるので、初めの一錠を飲む時には不安でしたが、服用した翌朝に呼吸の違いを感じて、この薬は効くと思いました。イベルメクチンを知らなかったら、もしかしたら助からなかったかもしれません(こちらは酸素も人工呼吸器も不足しているのです)。ちなみにこちらはジェネリックなのか薬価はもっと安くて、一錠12mgで40円～50円くらいです。300円弱で命拾いをしました。もっと多くの人に知って欲しいです。

あとがき

◆《ウイルスのスパイク蛋白自体が「毒」だった！（他）》《まるで放射能の内部被曝と同じ発想だね。「ただちに危険はないw」》というのは、suyapさん、2021/06/03 (Thu)。内部リークを含め、いろんな情報が。もうかるのは、ワクチン会社と医師会、…？ follow the money. ファイザーの社長は1日5億、副社長は2億、儲かるとか。(J)

◆拙宅周辺は空地空家跡への住宅新築が相次ぎ、更に今は某スーパーの新築工事中。近くにショッピングセンターが出来てから21年、かつての工業地帯というイメージは薄れた。歯科や外科、老人福祉施設も出来た。歩いて5分以内のエリアに無いのは、家電量販店と葬儀場くらいか？と知人が電話口で笑う。確かに…。いずれは拙宅も“跡”になる。(B)

◆「バカ尾根」で主人公が飲んだ酒はなにか。ネットで佐久の酒を見てみた。花見酒だから「みやまざくら」、山と対話したから「浅間嶽」か。ほかに放浪気分の「牧水」、源流をたどる「千曲錦」……などと勝手に決めた。酒の名前を並べるだけでも“呑み鉄”気分には誘われていた。(S)

◆普段は足を向けることもない大町通りのカクテルバルで「テイクアウト」の職に釣られ、9種類のおつまみセットを頼んでみた。この日はスーパームーン。田植えも終わり、にぎやかなカエルの合唱を聴きながら、紙パックに入った純米酒・赤ワインをほんの少こーし。(T)

「海市」 第24号

2021年6月9日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方